

令和3年度 魅力ある県立学校づくり大賞 優秀賞の取り組み

「福祉マインド」の涵養 ～コロナ禍・拠点校としての模索～ 千葉県立松戸向陽高等学校

学校の概要とこれまでの経緯

普通科と併設し、本県唯一の福祉教養科を有する高校です。県立学校改革推進プラン第1次実施プログラムの指定以来、福祉人材を育成する拠点校として「福祉マインド」の涵養を目指した教育活動を継承しています。

厚生労働省認可の国家資格「介護福祉士」受験資格（福祉教養科）や「介護職員初任者研修」修了資格（普通科福祉コース・福祉教養）が取得できます。

「令和3年度関東地区高校生介護技術コンテスト」では、最優秀賞を受賞しました。

令和3年2月、厚生労働省事業「介護のしごと魅力発信事業」として実施された『にっぽんの要』に参加する機会を得ました。福祉教養科の生徒5人の研究をもとに、「介護・福祉かえる委員会」の一員として「介護のイメージをかえる」提言を発表し、有識者等からの高い評価を得ました。



「医療的ケア」の演習風景

実習の実際

実際的な対人の実習に近い状態を模索するため、オンラインでの双方向同時通信を積極的に取り入れる実践を試みました。生徒が介護計画を作成し、その計画に基づき施設職員がリアルタイムに生徒と応答しながら実際の介護を行いつつ、指導助言をするといった実習も行いました。

また、「超高齢化社会における社会的孤立」をテーマとした「コミュニティ・コーピング」を用いたゲーム形式での実習やVRゴーグルとヘッドホンを着用して認知症のメカニズム等を疑似体験「VR体験」実習を実施しました。参加した生徒からは、「階段を下りるだけなのにビルの屋上から飛び降りるような恐怖を体験した。実際に認知症を実感できて勉強になった。」といった感想が寄せられました。

地域の福祉関連施設の方々とはさまざまな相談をする機会を得たことは、今後につながる大きなメリットになりました。ICT活用の工夫による実習を構築したことで互恵的相乗効果が見られ、施設や地域福祉にとってもプラスの要素となり、本校の学びが社会に与える意味を改めて気づかせてくれました。



「移乗介助」の演習風景

福祉拠点校として

コロナ禍の逆境にある中で挑戦した今年度の取り組みが、新学習指導要領が目指す、「予測困難な変化に対応し、自ら課題を見つけ、学び」、「協働して考え、判断して行動する」といった、「生きる力」の育成に資するとともに、コロナ禍と切り離しても新しい学習の在り方として有効性を持つことが実感されました。

今後はさらに施設や人材など、地域の教育資源と結びつきながら、相対的かつ現実的な学習環境の整備が必要です。高い専門性を基軸とした「福祉マインド」を涵養し、地域に有用な人材を還元できるように、福祉教育拠点校としての役割を推進してまいります。



「医療的ケア」の演習風景